

輸入食品の安全性確保に関する意見交換会

報道の立場から見た 輸入食品の安全についての問題

主催：厚生労働省医薬食品局食品安全部

会場：新梅田研修センター

2012年1月20日 15:25-15:40

日経BPコンサルティング
開発本部編集グループ
プロデューサー 中野栄子
e-nakano@nikkeibp.co.jp

昨今の輸入食品の問題は？

- 2011年3月11日、東日本大震災発生。それに伴う福島第1原子力発電所事故により、食品への放射性物質汚染などが問題に
- TPP参加議論白熱（「参加すると食の安全が損われる、だから反対」…ホントにそう？）
- 12月米国ハワイ産のGMパパイヤが輸入解禁（初の食用GM？）
- 日本で未承認の遺伝子組み換え微生物を使って作った食品添加物が日本に
- 米国産牛肉の月齢制限緩和の議論始まる

震災・原発事故の食品報道の問題点

- 放射性物質の規制値超え
- 規制値の設定方法の問題
- 規制値超えのコメなどの出荷停止
- 「ただちに健康への影響はない」発言の意味
- 輸入食品の残留農薬基準値超えと同じ問題

「ゼロリスクはない」が世の中に伝わらない

- リスクとは？
- $\text{リスク} = \text{損失(ハザード)} \times \text{発生確率}$
- リスクは量である
- リスクの比較
- 閾(いき)値の問題
- メディアも正しく理解して、正しく、分かりやすく伝えていない
- なぜか？

メディアが正しくリスクを伝えられないワケ

- 記者は一般に科学リテラシーが低い
- 勉強はする、でも、すぐ異動
- 記事を正しく書いても、「見出し」でニュアンスが変わることも
- 意見の違いと事実の違いを区別しにくい
- 視聴率重視、部数重視
- 良いニュースは危ないニュース。平和なニュースはニュースでない → ニュースの価値とは？
- 危ないニュースといっても、リスクの大きさとニュースの大きさは比例しない

風評の原因は何？

- 消費者が十分な情報を得られないことで、疑心暗鬼。不安が増して、負の口コミへ
- 消費者の情報不足を助長するのがメディア
- 一部のメディアは、消費者の不安を煽る(確信的)
- 別のメディアは、知識不足により、結果的に間違いを消費者に伝え、消費者を不安に陥れている
- こうしたことで風評被害が増幅する

さらにこじれて・・・

- 「ただちに健康に影響はない」 → 何言っているのか分からない
- 「健康に影響するものではありません」 → 嘘つき！！
- 「100mSvの放射線被ばくで、0.5%のがん増加」の意味 → 「受動喫煙や野菜嫌いによるがんの発症率増加よりも少ない」 → 放射線の影響をほかのものと比較するなんてとんでもない！

検査大好き日本人

- ・ 公定法とされる全頭検査は、試料となる牛肉は1頭当たり正肉部分1kgをサンプリングし、細切、均一化したものを、数千万円もする「ゲルマニウム半導体検出器」を1時間稼働させて行う。計測データも、バックグラウンドデータなどと照らし合わせて、信頼性などを検討。
- ・ ガイガーカウンターで環境や食品をチェックする幼い子供を持つ母親
- ・ 秋葉原で販売している中国製、10万円以下のガイガーカウンターは、国民生活センターの調査により信頼性に疑問符

「科学的な判断をすべき」

- 震災・原発事故により、中国が福島県をはじめとする12都県の農産物を、放射性物質に汚染されているとして、輸入禁止措置
- これに対して日本は、「科学的な判断をお願いします」
- どこかで聞いたことがあるような・・・

- ・ 2001年に日本で初めてBSE(牛海綿状脳症)が確認され、人々の食に対する不信感が一気に高まり、その信頼回復のために始めた検査が全頭検査
- ・ ただし、全頭検査をしても、若い牛が感染している場合は検査をすりぬけることもあることから、科学的には意味がないとされている
- ・ 欧州では、飼料規制と特定危険部位というBSE対策が奏功し、検査自体はどんどん縮小。
- ・ いまだ続く、日本の全頭検査
- ・ 世界からは、「世界の常識、日本の非常識」と見られているのでは？

米国産牛肉の月齢制限緩和へ議論スタート

- 2003年、米国でBSE感染牛が発覚したことで、米国産牛肉の日本への輸出が、現在も制限されている
- 日本では20カ月齢以下の牛肉のBSEリスクは無視できるとし、それに合わせて米国産牛肉も20カ月齢以下に限って輸入されてきた
- 「20カ月齢以上の牛はBSEリスクがある」は“時代遅れ”の認識 → 月齢制限緩和へ

2011年12月1日、GMパパイヤ輸入開始

- 世界で最も多くの遺伝子組み換え作物を輸入する日本
- 例えば、トウモロコシは日本の消費量の100%、約1600万トン在海外から輸入。そのうち約1300万トンが遺伝子組み換えトウモロコシ。ただし、表示が不要な畜産飼料や食品加工原料で、一般にはほとんど認識されていない
- 米国ハワイ産の遺伝子組み換えパパイヤが、初めて”食用”として日本上陸

TPP参加で、どうなる日本の食の安全？

- 遺伝子組み換え作物は、日本には表示制度があるが、米国にはない。TPP参加すれば、米国にならって表示制度が撤廃され、食の安全が損なわれる
→ ホント？
- GM表示は選択の手段であり、安全の指標ではない

- 読者からのオピニオン
- 「震災の情報が国民の関心を集める中で、国民の安全にかかわる重大なことが、多くの目に留まることなく承認されようとしている」
- 2011年5月、農水省がGM品種のパブコメ募集を行った際のこと
- あたかも、「日本で初めてGMが上陸する」と煽っている
- 「日本ではGM農産物を導入すべきではない」「リスクはゼロではないので危ない」と主張
- 事実誤認に基づいた意見の掲載したメディアの責任あり

ご清聴
ありがとう
ございました



日経BP 中野栄子
e-nakano@nikkeibp.co.jp